

実施事業： 小田川流域に住む小中高生の学習・生活支援

実施者名： やかげ 小中高こども連合 YKG60

助成金額： 500,000円

実施した事業の内容・成果

「平成30年7月豪雨」により、矢掛町・倉敷市真備地区では小田川の堤防決壊に伴う浸水等で、各地で甚大な被害を受けました。中でも岡山県倉敷市では、高梁川と小田川という2本の川が合流する真備町エリアを中心に大きな被害が出ました。真備町内の小学校2校・中学校2校・高校1校が床上浸水等の被害を受け、仮設校舎などで運営しています。近隣の自治体のみなし仮設住宅や親戚の家、床上浸水し一部のインフラが整っていないながらも自宅の2階などで過ごされている方、9月末に完成した応急仮設住宅に入居された方々もいらっしゃいます。

7月豪雨で岡山県内でもっとも多く生徒が被災したのが矢掛高校ということは、あまり知られていません。岡山県立矢掛高等学校は、岡山県矢掛町に唯一ある高校。西日本豪雨災害により、県内で最も多い5人に1人の生徒が被災しました。矢掛高校の生徒たちのご家庭も含め、先が見えず不安な思いをしている方々が多くいらっしゃるのが現状です。

こどもたちは、支援片付けの日々の中で、「何かしたい」「楽しいことしたい」そんな想いがふくらんでいます。中学生を中心に、流れてしまった浸かってしまった制服や体操服、算数セット。「声かけて集めよう！そして、それだけじゃ楽しくないから、縁日やろうよ！」イエーイ夜市の開催です。夜市であつめた義援金を被災した矢掛町の中川公民館へお届けしました

高校と協働で7月末から始めた被災した矢掛高校生徒へのヒアリング。「豪雨当日、水が2階に迫ってくる。大きな声で助けを求め続けた。救助できないと判断され、取り残された夜、家族で白ご飯とふりかけを食べた。」1年生徒の話。どんな想いだったのだろう。助けを求めても、もう救助が来ない。大人なら、水が引けば、自衛隊が、朝になればと考えを巡らすだろう。子どもはどんな想いだったのだろう。

「修学旅行先で2日間足止めされた時、被災していない人たちと温度差を感じた、私はとにかく家に帰りたかった。家の状況が知りたくて仕方なかった。2年生の想い。のちのちにも出てくることになるけど、被災した生徒と被災していない生徒とのギャップ。9月10日全員終了しました。大雨から今日までのみんなの心の中にあるいろんな気持ちを出して、今困っていること、こうなったらいいな、何ができるかな等、いろいろな考えを聞き出しました。主として高校生の学習支援・通学支援・学校生活支援が喫緊の課題であることがわかりました。教科書・文具がない、制服がない、自転車がない、弁当がつかれない、高校に通えない、居場所がない。

YKG60として何ができるかを考えました。放課後、こどもたちが集える空間【みんきちハウス】を整備しました。もともとこの建物は、矢掛小中高こども連合の本部として矢掛町から貸与されたもので、矢掛駅から100m、矢掛高校から200mと適度な立地です。有償ボランティアの支援を得て、被災した生徒たちを中心に、温かい補食を提供します。月曜日から金曜までの15時30分～19時30分開館します。

開館して数か月。子どもたちが、自由にのんびりゆったり、楽しく過ごせるような、そんな場所になっています。そして、何気ない交流や、会話の中から夢が生まれてカタチになって利用です。利用者は5人～30人。日によって差がありますが、安定して生徒たちが集まってきます。

被災して、親戚の家や、みなし仮設住宅などで自分の一人の空間を持ってない子もいます。自分の家が解体された子もいます。どんな使い方でもいいから、何にもしなくていいから、美味しいもの食べたり、音楽聞いたり、お昼寝したり、おしゃべりしたり、ゲームしたり、漫画読んだりと自由にくつろいでもらえ

たら最高です。小中高校生目線で一つずつ作られていく、みんきちハウスが、より楽しい場所に生まれ変わりました。復旧から復興へ、そして新しい価値の創造へ。小田川流域は動いています。もちろん子どもたちも。



7月豪雨時の小田川流域



高校生が復旧の力になる



小中学生も活躍



高校生がつくる「みんきちハウス」



被災した高校生の居場所



小中高校生の年齢差を越えたつながり

1 17版 2018年(平成30年)10月14日 日曜日

新・地域考

中高生が地域の担い手に
岡山県内

中高生が地域の担い手として社会的な課題解決や伝統文化の継承に取り組み、岡山県内で目立ってきた。地元への困りごとに対し自ら考え実践する活動も利用する。

町内の小中高生でつくる「やかげ小中高子ども連合YKG60」が開設した。地元YKG60は、甚大な被害を受けた隣の倉敷市真備町地区から通う生徒も多い。避難先で自身の狭い思いを立ちは寄り、自分の時間を過ごしてもらった。

多く、地域に欠かせない存在ともなりつつある。地方創生や地域人材の育成につながる。自治体や国は政策的な後押しに乗り出した。

9月中旬、矢掛町に西日

本豪雨で被災した高校生らの居場所となる無料のカフェスペースがオープンした。菓子や飲み物を用意して平日の午後に開き、小中学生らも含め1日30人前後が利用する。

西日本豪雨で被災した生徒のためにYKG60が運営するカフェ＝岡山県矢掛町

決算報告 (※原則として領収書の写しなど金額確認できるものを添付いただきます。)

今回実施した事業の決算内容は下記の通りです。

項目		算出根拠	金額(円)
収入の部		ももたろう基金【第4次助成】	500,000
		やかげ小中高こども連合経常費より補填	52
		ベネッセこども基金 被災した子どもの学びや育ちの支援活動助成	500,000
		収入合計	1,000,052

項目		算出根拠	金額(円)
① 当プログラム助成金対象費目 当プログラム助成金(このプログラムで集めた寄付金)を充てる費目	役務費	ケーブルテレビ工事費・利用料	112,968
	人件費	生活学習支援員報酬	251,600
	食糧費	補食材料(おでん・とりめし・ポトフ材料他)	135,484
		小計	
② その他費目 当プログラム助成金(このプログラムで集めた寄付金)を充てない費目	使用料・借上料	会場使用料・ジャンボタクシー代	82,294
	人件費	雲の上カフェ支援員報酬	20,400
	旅費	復興支援コーディネータ合宿旅費	68,510
	通信運搬費	はがき	6,820
	印刷製本費	チラシ	6,048
	役務費	真備クリスマス会分担金 他	15,000
	材料費	雲の上カフェ材料	42,960
	消耗品費	角スコップ・支援文具・網戸・工具・スリッパ 他	232,894
	食糧費	補食材料(米・海苔)	19,458
	雑費	講師御礼・両替手数料	5,616
		小計	
	支出合計		1,000,052

寄付者へのメッセージ

悲しい出来事もたくさんあったけど、

その話などで周りのみんなが暗くなることの方が辛い。親も同じ。だから話せない。

でも、今ここでこんなにも真剣に聞いてもらえた。話せた。

それが嬉しくて胸が一杯です。

前に進むしかないじゃないですか！

だったら笑っていた方がいい。

(被災した女子高校生の言葉)

今後の活動

平成 31 年度矢掛高校の希望者が明らかに増加しています。これは「自転車で通える高校へ行きたい。行ってほしい。」という被災された家庭が多いからなのです。この子どもたちを地域として支えていきます。みんなきちハウスは、資金の続く限り継続します。特に勉強面・学校生活では厳しい状況が続きます。さらに学習支援の側面を強化します。子どもたちの発想・企画を生かしたイベントを開催します。高校生が、災害の語り部となることを通して自分の立ち位置を見つめなおし、自分の将来を考える活動を始めます。それが新しい価値の創造につながるのです。

『復旧』から『復興』へそして『新しい価値の創造』へ。復興以降の段階こそ高校生などの若者が力を発揮できるのではないかと、発揮すべきではないかと思えます。中山間部では『復旧』『復興』だけでは人口流出は止められません。『新しい価値の創造』には若者の意見や企画が必要です。もちろん行動も……。行動する若者をしっかり支えるおとなたちがいれば、新しい価値は生まれます。